



会 報 第17号

●発行所●
栃木県立真岡農業
高等学校同窓会
●発行人●
同上編集部
●印刷所●
こだま印刷



同窓会長 菊地 恒三郎

『新入会員を心から歓迎』



学校長 菅谷 善六

学校教育を顧みて

このたび、真岡農業高等学校を卒業される皆さんを、本校同窓会の仲間として迎え、今後、共に歩むことができます。ことは、私にとりましてまことに喜びとするところであります。

三ヶ年に所定の課程を修め、新しい世界へはばたく皆さんに心からお祝いを申し上げるとともに、今日まで温かく見守ってこられたご家族の方々にもお喜びを申し上げます。また、皆さんの未来に夢を託し、教育愛のもとに誠心誠意ご尽力された先生方には敬意と感謝を表したいと存じます。

本校は、明治四十一年創立され、既に同窓会員は一万三千余名におよんでいます。同窓生一人ひとりが本校で学んだ真価を発揮し、農業はもとより社会の各方面で活躍しています。

新会員の皆さん、皆さんはいよいよ進学または社会人として新たな人生の第一歩を印されますが、校訓「今日あるを感謝し、最善を尽す」を胸に、本校で培った教養とたくましい行動力をもとに、さらに着実に努力を重ねるならば、洋々たる前途が広がるものと確信しています。



しかし、皆さんの行く手は決して平易なことばかりではありません。農業問題、景気の低迷、環境問題、高齢化社会の進行、国際情勢等を認識し、地に足をしっかりと着けて夢と希望をもつて若者らしく力強く堂々と前進していただくことを期待しています。

皆さんは、額に汗して命を育み実りを実感する農業教育のすばらしさを学び、平成三・四年度の二年間には、栃木県教育委員会より福祉教育研究学校として指定され、福祉諸活動を通して人間性豊かな福祉の心を養い、この貴重な教育を受けたことに、自信と誇りを持ち、社会に踏みだしていただきたいと思えます。

また、母校がいつまでも皆さんの心のふるさとであるよう願っています。

同窓会の皆様の、本校への日頃の御理解と御協力に對し、心から感謝を申し上げます。

今年、明治五十八年八月二日太政官布告の学制序文「邑むらに不学の戸なく、家に不学の人なからしめん」が發布され、我が国の近代教育制度が創始されてから、百二十年の節目に当たり、我が国の教育制度の変革や本校の歴史、現況について顧みたいと思います。

一、我が国の教育の変革

我が国の教育制度は、明治・大正における整備拡充、戦後の新教育制度の発足と時代の変遷に對し、幾多の改革改善が行われて来ました。

なかでも、昭和五十九年に設置された臨時教育審議会では、「個性重視の原則」「生涯学習体系への移行」「変化への対応」を基本理念とした数々の教育改革の提言がなされ、生涯学習の推進や学校教育の個性化、弾力化が積極的に進められてきました。

更に平成三年四月には中央教育審議会から、「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」の答申がでさ

れ、総合的な新学科や全日制単位高校の設置、入学選抜など高校教育の改革が進められております。又昨年九月から、全国の国公立の初等中等教育諸学校で月一回の学校週五日制が導入されました。これは明治以来の教育の枠組みを変える大きな改革であります。学校週五日制は、学校・家庭及び地域がそれぞれの教育機能を發揮し、子どもたちが自から学ぶ意欲と主体的に判断し行動できる力を身につけることを目指してあります。

登校拒否や高校中途退学の子どもの増加しつつある状況の中で、この学校週五日制を契機として、学校教育の在り方を見直すとともに、家庭や地域社会の教育力の回復を図っていくことが重要であると考えております。

二、本校の沿革

当地域は徳川末期に二宮尊徳の力により経済更生をはかり、また幕末の名代官といわれた竹垣翁により越後から集団移民がなされ、地域開発が行われました。しかし、孤立的な立地条件と瘠薄な地力であ

る火山灰土に災いされて生産性が極度に低く、貧富の差が大きくなり、且つ民心の疲弊の著しい地帯でありました。

本校は、比較的后進県といわれた本県の中で特に後進性が顕著で且つ民度の低い鬼怒川東部地区にあるこうした芳賀郡の産業経済開発特に農業経営のための新しい農村の中核となる人材養成を目的として、明治四十一年四月に芳賀郡立農林学校として設立され、御党の夢と期待にそうべく、当時としては近代的な施設のもとに、農学の基礎理論と近代技術を駆使した学校農場等地域農業開発の拠点としての役割を果たしてきました。

その後、大正十二年栃木県立真岡農学校として県に移管され、武士道精神と報徳訓を教育の中核にして「土に生きる」根性と陶冶された卒業生がその健学の精神を卒業後の自からの當農の場において開花結果させて、今日にみられる芳賀農業の繁栄をもたらす原動力となつております。

昭和二十三年新制高校の発足に伴い、栃木県立真岡農業高等学校と改称、農業科二クラス、農村家庭科一クラス三学級として発足、昭和三十七年農業科一クラス、畜産科一クラス、食品化学科一クラス、生活科二クラス、機械科二クラスに学科再編、四十一年に機械科が独立し、真岡工業高校として発足、四十四年には農業科、園芸科、畜産科、食品化学科各一クラス、生活科二クラスとなり、更に平成二

年に、農業経営科、農業機械科、食品化学科各一クラス、生活科学科二クラス、四学科六学級に再編し、創立八十五年を迎え、学校敷地と農場面積二十五ヘクタールを擁し、県下に誇れる美しい環境と施設設備の中で「今日あるを感謝し、最善をつくす」を校訓とし、「地域に信頼される」学校づくりに取り組んであります。

三、本校の現況

◇学校経営方針

教育目標達成するため、全職員のと協力のもとに総力を結集して教育にあたり、生徒各人の個性を尊重し、それぞれに応じた指導を工夫し、生徒が何事にも自信をもって積極的に取り組む意欲を育て、たくましく生きていく力を身につけさせる。

◇生徒指導、学習指導

職員研修を積み重ね、全職員の共通理解をはかり、一人の百歩前進より百人の一步前進をめざし、すべての教育の場においてその推進をはかる。

◇各職員が、その使命を自覚し最善をつくし、

生徒の教育にあたりと
共に、各分掌を通して
教育目標達成をはかる。

◇生徒の能力、適性、進
路に応じた指導体制を
確立するとともに、勤
労を愛し、責任を重ん
ずることが平和社会建
設の要諦であることを
自覚させ、自己啓発の
態度を育成する。

◇きれいな学校づくりを
通して、精神的、肉体的
な自己浄化と社会への
協力を奉仕の精神を養
う。

四、本校教育の概要

◇本校教育の主な特色
作物部門では、成苗二
本機械植えの技術開発
を行い、苗一箱当たり
種粒五〇グラム以下と
した播種機の開発に成
功し実用化しています。

この成果は、冷害や麦
作後の稲作に威力を発
揮することなど明らか
となり、地元農協や宮
農集団、農業者はもと
より、宮城県を中心に
東北から九州地方の各
地から現地指導・講演
会の要請が年々増加し
注目されております。

また、湛水土壌中直播
栽培は昭和五十七年度
より研究に取り組み、
省力化や倒伏、秋落ち
防止の技術を確立し、
収量を安定させ、多く
の稲作農家に技術を提
供し、その普及に努め
ております。

野菜部門では、県の施
策である「とちぎ新農
業プラン（平成三年・
七年）」にあわせ、首都
圏に位置する地理的優
位性や恵まれた自然条
件等を最大限に生かし
園芸作物の振興を積極
的に進めております。

ます。

農業機械科では、近代
的な施設設備（認証工
場申請中）のもとに、
機械整備、機械工作を
中心に充実した学習を
展開し、機械化の進展
に対し農業機械を駆使
する農業経営者、整備
技術サービス等の技術
者養成や社会に通用す
る資格取得に努めてお
ります。

食品化学科では、農業
生産物の付加価値を向
上させる方策について
食品関連会社や普及所
農協等との連携を深め
味噌の製造や各種漬物
イチゴジャム等技術を
開発し、その技術を地
域に提供している。

◇地域と連携した学習
「農業教育推進協議会」
（関係市町長、関係農業
協同組合理事長、農政
事務所長、農業改良普
及所長、同窓会役員、
PTA役員、学校）を、
昭和四十八年に組織し、
時代の変化に対応でき
る農業教育を推進する
とともに、関係機関と
の連携した見学や講演
会、現場実習、経営改
善研究会等各種事業を
通して地域農業の実体
や方向について直接肌
で感じる学習を行い、
効果的な農業教育推進
に努めております。

以上、学校教育の変遷や
本校の概要の一端を申し
上げました。

農業教育には数多くの
困難な問題を抱えており
ますが、「子孫が生きて
ため」農業及び農業教育
の振興を図る等、農業教
育の持つ重要性を充分理
解し、農業教員の姿勢が
弱腰になることなく、自
信をもって教育に当って
ます。

私は、昭和十六年真珠
湾攻撃、そして太平洋戦
争と戦雲暗く立ち込めた
昭和十七年十二月二十八
日繰上げによる卒業とな
りました。

昭和十八年一月に雀宮
村東国民学校に勤務、昭
和二十年三月東部三十六
部隊に入隊、九月に復員
をしました。昭和二十年
十一月に本郷村農業会に
勤務、昭和二十年十二月
から上三川町職員として
地方自治の振興発展に微
力を尽しております。

本校を卒業して五十年
という歳月を「今日ある
を感謝し最善をつくす」
という校訓を常に忘れる
ことなく今日を迎えたの
であります。

上三川町助役に就任して

昭和十七年度卒
本郷支部 浜 野 和 甫



地方の時代は永久に來な
いし、住民本位の行政サ
ービスは展開できない。
と、書いています。

私も同感であります。

市町村では、汗をかき
ながら手と足で行政をや
る。自分たちの仕事によ
ければ住民の満足と笑顔
とがね返ってきます。

一つ間違えば失望の顔
を見なければなりません。

そんな顔を見ないために
も、市町村は行政の最前
線でアンテナを高くとし
住民ニーズを吸い上げな
ければならないと思いま
す。その中から新しい発
想が生まれ、真の地域活
性化が期待できることに
思っています。

今後とも、同窓の皆さ
まのご指導を賜り、重責
を全う致す考えでありま
す。

最後に、本校の限りな
い発展と同窓会の繁栄を
お祈り申し上げます。

農業士就任の決意

昭和三十八年度卒
吉 永 進



平成二年度の栃木県農
業士として、平成三年一
月九日、栃木県公館に於
いて多くの来賓の見守る
中認定式が行なわれ、知
事より一人一人に認定書
が、農務部長より標札が
妻に手渡され、晴れて農
業士として仲間入りをし
た訳です。

知事のあいさつ、来賓
の方々の祝辞を聞いてい
るうちに、その責任の重
大さを痛切に感じ、何か
全体にその重圧が大きい
のしかかるのを感じた。

式が終り庭園を散策し
ながら、一つ一つの言葉
を思い浮かべ、自分なり
に「噛み直し」をするが、

青年部長として

昭和五十九年度卒
高 平 登 順



くれるのではないかと思
うのです。自分なりに青
年部長として努力してき
ましたが、まだまだやり
残した事ばかりなので、
これからも本校同窓会
のために協力し、努力し
て行きたいと思ひます。

本校の同窓会青年部の
部長を引き受けてから二
年が過ぎ去ろうとしてい
ますが、私にとつては長
くて短かい、あつという
間の二年間でした。この
二年間を振り返って見る
と、色々な事が思い出さ
れます。青年部の学校行
事への参加は役員さんた
ちの協力もあって、学校
祭や就農者を励ます会
など多くの行事を行って
くる事が出来ました。

一年目は青年部長とい
う大役を任されて、全く無
我夢中の一年であつて、
二年目は、何もせずに過
ぎ去ってしまった様な気
がします。今になってか

やはり「やるしかない」
と心に決めた。名言を借
りるならば「人生は、重
き荷を負いて、遠き路を
行くが如し、急ぐべから
ず、あせるべからず」地
味に、人の和・地域の和
を大切に「地域農業の振
興」「後継者育成」と難
しい目的であるが、地域
に根を下して、実践して
行くと自分なりに考えを
まとめたのでしたが……。

この二年を振り返って
みます。

新農業士として「他の
模範的な作物を作らなく
ては」と、気負い、見栄
を、欲を張ったせいもあ
る。専門部門の「梨」
は散々であった。秀品率
大きさは目を覆う結果で
あった。少しの欲が品質
を落す、勿論収入も落ち
る。子供の頃読んだ「舌
切り雀」を思い出す。舌
を切られた雀を助けたお
じいさんは、軽い小さな
「つづら」を土産に選り、
欲張ったお婆さんは、大
きな重いつづらを選んだ
……。

作物総てが、いや地球
上の総ての物が、同じで
はないかと思うが、バラ
ンスがいかに大切である
かを、改めて思い知らさ
れた初陣であった。



二年目は、それらを反
省し綿密な計画を基に作
業に入る、その時々天
候も幸いし、総て順調に
進んで活気あふれる収穫
の秋を迎える事が出来た。
結果を出さないと従っ
て来てくれないし、話も
聞いてくれない、説得力
にも欠ける。自ら努力し、
何事にも一生懸命取り組
む事が、言葉より大切で
ある事を体験したこの二
年でした。

農業士として目的達成
の為微力ではありますが
尽したいと思ひますので
今後共指導ご助言を戴
ければ幸に存じます。

優良農家紹介

我が家の農業経営



昭和三十九年度卒
真岡支部 館野 義明

私は昭和三十九年度に真農を卒業しました。当時、水稲10aという経営形態がさばって居り、我が家の経営方針も当然そうでありました。農業の曲り角”という言葉も流行語のようになっていた様にも記憶をして居ります。当地域では、苺を取り入れた農家も大分ありました。其の苺も品種的にはダナーが主力、其の後、麗紅、そして現在の主力であります女峰となつて参りました。我が家でも最初は3a程トンネル栽培で導入を致しました。栽培型も、半促成栽培から超促成栽培の加温栽培となつて参りました。現在では、34aの連棟ハウス栽培で品種は女峰、

の思い通りに作物を作れる農業の素晴らしさ、とすれば暗いイメージだけが先行してしまつて居る現在ですが、明るい材料も一杯あります。今後規模拡大をしながら農業を続けて行こうと考えて居ります。



我が家の農業経営



昭和四十二年度卒
山前支部 服部 正一郎

私は、昭和四十二年度真岡農業高校を卒業しました。卒業と同時に派米研修生に応募し、翌年異国の大地アメリカに行きました。今でも思い出しますが、初めて見たアメリカ合衆国は予想していた様に、スケール違いの雄大さでした。当時、アームストロング船長が人工衛星アポロではじめて月に足を踏み入れ、世界中の人々が注目していたところでした。

日本では三億円事件ニュースが毎日のように報道されていたと思ひました。帰国後はビニールハウス三百坪建設し、トマト栽培を導入しました。また地域の青年団活動、4Hクラブ等団体活動に力を入れ、全力投球したことが今思えば勉強になったと思ひます。

将来ハウス面積三〇〇〇坪までと想っています。が、バブル崩壊後の日本経済、ガットウルグアイラウンドの農業問題など気になり、情勢を見て考えるつもりです。

花の栽培は、自然状況や気候条件等が大きな問題です。病気や害虫との戦い、市場の混乱など沢山の山問題があります。こういう中で、今自分で考えているものは、生産性の高いレベルへの切換え、テクノロジーの理解や研究に毎日を通じている。そんな気がしています。

私は、昭和四十年卒業と同時に自動車関係の仕事に就いていましたが、我が家では、母と妻とでPメロン・ナスを栽培しており、私などは休日お手伝うぐらいのものでしたが、母の年齢等を考えると私が、農業に専念する事が最良と思ひ、母にあと三、四年頑張つて貰えば何んとかなるのではなからうかという、安易な考えで、昭和六十二年から専念した訳ですが、初年度のPメロンに於いては発酵果、次年度が裂果、ナスに於いても、チャーホコリダニ等に悩まされ苦難なスタートでしたが己の経験、勉強不足を反省し、JA指導部、普及所、又地域の諸先輩の御意見・御指導を受け、何とか今日に至つた訳で

私の農業への道



昭和三十九年度卒
中村支部 田上 憲治



土に生きる友と共に



昭和四十九年度卒
大内支部 井沢 成一

私は、昭和四十九年度本校を卒業後、茨城県立農業大学校で二年間、寮生活で勉学し、就農して十五年、今私の農業経営は、水稲270a、苺26a、玉葱30aを経営しています。今の私が農業経営に汗を流し続けていられるのも、茨城県立農業大学校の二年間の寮生活で、よき友

と巡り会うことができたからだと思うのです。「農大」を卒業後、結城市に四名、猿島町に一名、協和町に二名、大和町に一名、千葉県に一名、そして私で、合計十一名で「緑の翼の会」を結成し、毎月定例会（意見交換）、新年会、八月にゴルフコンペ、十二月には忘年会

及びゴルフコンペ、そしてハウスのビニール張りを、十五年間ずっと続けているのです。これからも、ずうっと続けていきたい。

現在、農業情勢が厳しく、農業に対して不安感があります。私のモットーで「継続は力なり」で、どんなに苦しくても、自分なりの素敵な夢を実現するまで、良きライバルと共に、土に生きる友と共に、そして、妻と共に、今日も農作業に汗を流し続けている毎日です。

我が家の農業経営



昭和四十七年度卒
中村支部 石和 弘一

私は、昭和四十七年度に卒業と同時に就農しました。その当時の経営内容は、第一次減反政策が始まり陸田に中型パイプハウスでプリンスメロン栽培や秋ナス、干瓢などを作っていました。まだ一年間を通して労働力がたよっていたので、平均化しようと思ひ、昭和五十二

年度に第二次農業構造改善事業に仲間五人と共に25aのガラスハウスを建て、中村南部施設園芸組合法人を作りトマト栽培を始めました。私は、慣れない作業と昼夜の温度管理の難かしさもあり品質と多量の格差が大きくなって苦勞しました。この頃から土作りと言う事で堆肥作りが重要になりました。

た。そして土作りに心掛け収量も品質も年々上がるようになりまし。又品種に於いても三、四年で変り特性を掴むのに苦勞しました。三年前には、道路拡張になりハウスが3aほど小さくなりました。現在の経営状況は、水稲が260a、夏秋ナス40a、山和芋30a、ガラスハウス22aです。水稲に関しては、刈取作業を少しづつ請負作業をするようになりまし。夏秋ナスは、V字形誘引栽培による、長期安定多収、高品質が図ら

れています。近年は、病害虫防除にロボットスプレーカーが導入され省力化されました。トマト栽培に関しては、消費者のニーズに合わせた味と言うことで、従来の品種より栽培が難しく収量の少ないハウス桃太郎を栽培しています。農業情勢の厳しい中、ハウスにロックウール栽培を取り入れ、長期多収と消費者のニーズに合った品質と多収を目ざし、地域の仲間と共に頑張つて行きたいと思ひます。

優良農家紹介

「多くの人達に 支えられて」



昭和四十年年度卒
田野支部 館 芳 衛

二十八年、真農校の桜木に別れを告げ、生まれ育った山本の地で、家業の農業に取り組み始めた当時の事が懐しく思い出されます。とは言っても、自然と共に生きる」と言う言葉の様な訳に行き苦みありません。今でも忘れる事はありません。昭和四十二年四月、昨年の秋、先輩の手助けを受けて建てたハウスが大雪によって倒壊してしまつた。その中では大切に育てたキュウリがやつと黄色い花を付け始めたばかりだった。ハウスを目前にして、迎りの景色が見えなくなるまで雪の上に座っていた。また、昭和六十二年十月には新築した豚舎に子豚を移動して二ヶ月後、管理ミスで一晩に三百頭を死亡させてしまった。その他失敗は数々あります。その度に、自分の技術の未熟さに、言葉には表わせない気持ちを味わつて来ました。そして、それは今もなお続いているのかも知れません。しかし、私は農業を離れようとは思いません。私は農業が好きではありません。と言つて嫌いでもありません。生活をする為の一つの手段だと考える様になつて



我が家のくらし



昭和四十三年年度卒
益子支部 岩 渕 英 子

春には牧草の緑があざやかにうつり、庭にはさまざまな草花が咲く。そんな私の家は成牛、育成牛合わせて60頭を飼育する酪農家です。朝は六時から夕方は七時頃まで、決った時間に給飼・搾乳と一日があわただしく過ぎていきます。そんな中でとりわけ心をなごませます。我が家の場合、家

「表彰を受けて」



昭和三十七年度卒
岩瀬支部 深 谷 守 夫

この度は、表彰の栄誉をいただき誠にありがとうございます。身に余る光栄と思ひますと共に責任の重さを感じております。これからも個々の営農の確立と地域農業の発展のために頑張り、努力して行きたいと思ひます。

我が家では、土地利用型農業をめざして水稲を中心に、麦・ソバ・露地野菜を栽培しております。又農協の受委託部会の一員としても地域の皆さんと一緒にがんばつていきます。米づくりにおいては、昨年より農協で始めた微

表彰にあたって



昭和三十五年度卒
下館支部 桜 井 鉄 司

学校時代は、野菜選択で野菜栽培などを考えていました。しかし当地方は典型的な水田地帯であり、水稲を中心とした経営をするばかりありませんでした。地力の増進などを考え、和牛の肥育なども組み合わせたこともありました。

ます。農業情勢が厳しい時ほど、やりがいがあり又、チャンスと思われま

問題が出てきて、農村環境が大きく変化しはじめ兼業化が進み出した。水田経営に見切りをつける農家が出て、農地の受託をすることが容易になつた。減反政策が取られ、部落の集団転作地の管理なども増え、土地利用型農業といわれる形態に進められた。

昭和六十二年には、汎用コンバインを導入し、他作物との輪作もできる様になった。現在約20haの農地で、水稲を中心に、麦・大豆・ソバなどを栽培しています。

私の様な農業では、機械や施設などの過剰投資、作物の連作障害、農産物の値下げなど、問題は山積ですが、米の自由化が一番の難問です。しかし必ず進む道はあると信じて、今後も頑張つて行きたいと思ひます。今回私の様な未熟者が栄誉ある優良農家表彰を



活動報告と挨拶



PTA会長
猪 野 邦 雄

新年を迎え、同窓会の皆様は益々ご活躍の事と

本年度のPTA活動は新たに茂木支部を加え、六月下旬より、90%以上の高い出席率の中で、学校の内容、生徒指導、二期より実施された月一回の週休二日制等、多くの事情を熱心に討議され、実りある支部会が開催されました。

又、七月七日より、千葉県鴨川で、「青少年健全育成、地域に根ざしたPTA活動」をテーマにして関東大会が開催されました。役員研修は七月十四日、十五日に東電福島原子力発電所PR館を視察し、改めて考えさせられる所がありました。

八月二十七日より、熊本市に於いて全国大会が開催され、全国各地から一万人が集い、「私たちは会員としてPTAに何を求めているか、何をすべきか」をメインテーマに熱心に討議されました。母の会に於きましては

活動報告

平成四年度の生徒会活動

顧問 黒崎 照 史

今年度も生徒会は「生徒達による自主的な生徒会運営」の基本理念のもと、会長の猪野和愛君を要とした十七名の役員が一丸となって意欲的に活動してまいりました。

今年度の行事を振り返って見ますと、一学期は部活動紹介に始まり、常任委員会、生徒総会、益子養護学校との交流会、球技大会、二学期は体育祭、学校祭、そして益子養護学校の運動会及び交流学習発表会への参加。三学期は三年生を送る予

農業クラブの一年

農ク顧問 川原 井 英 男

今年度の農業クラブは会長の藤沢正行君をはじめ十九名の役員で運営してきました。

次に、本校クラブ員が出場した農ク発表、競技の成果を紹介して、活動報告をさせていただきます。意見発表会には、校内大会で最優秀を獲得した農経科三年藤沢正行君（経営や流通に関する問題）、生活科学科二年高松美幸さん（産業人としての生き方に関する問題）、生活科学科三年藤井奈美さん（文化や生活に関する問題）の三名が鹿沼農業高校での県大会に出場し、藤沢正行君が優秀賞を獲得しました。

は「レンゲ祭」と銘打ち本校農場で行なわれしました。生徒会役員を中心とした有志生徒が、養護学校の子供達とレンゲ畑で遊んだり、ゲームをしたり、カレーライスを作ったり、いっしょに食べたりと充実した楽しい一日を過ごしました。この他、運動会と交流学習発表会にも昨年同様参加させていた。昨年度に比べて、両校の生徒達の顔が生き生きとしていた事が印象的でした。

球技大会や体育祭は各クラス共、時間を見つけては練習に励み、気合十分で、力が入る熱戦が繰り広げられました。

学校祭は今年是非公開の年にあたり、盛り上がりに欠けた部分もありましたが優秀賞を獲得しました。

測量競技には、農業機械科三年石川淳一君、池田慎二君、益子勝彦君の三名が出場し、夏休み中の練習の甲斐あって、もう一息で最優秀という成績を収めました。

農業鑑定競技には、農業経営科三年藤沢正行君、同一年古谷智則君、農業機械科二年金子哲也君、食品化学科三年菊池美紀さん、生活科学科三年岡田朱美さん、同三年飯島紀子さんの六名が、校内大会の結果、代表として和歌山県開催の第四十三回全国大会に参加しましたが、入賞は果たせませんでした。

家庭クラブ活動を振り返って

顧問 谷田部 幸 枝

今年度の家庭クラブは、会長の小玉さんを中心に本部役員九名、各クラス二名の代議員、三名の顧問が力を合わせて活動してきました。

行事を振り返ってみると、一学期には、新クラブ員に家庭クラブ活動の意義や内容を理解してもらうための「クラブ紹介、母の日の手作りプレゼント」のために七宝焼きの講習会を催した「被服講習会」、高校生活の中で印象深い思い出の一つとして残るといふ「保育実習」があり、二学期には、夏休み中にクラブ員が自分の個性を生かして作り上げた作品を一点提出、それを全部家経室に展示、そしてクラブ員全員の審査、優秀な作品に記念品を提供した「作品展」が、今年是非公開のためあまり大がかりではありませんでした。

また、第三回のオレンジ派遣農業研修では、農業経営科三年猪野和愛君が七月八日から八月九日までの一カ月間、花卉園芸農家でのホームステイを体験し、将来への夢を膨らませて元気に帰国しました。次年度も農業経営科一年田崎秀一君が参加するため、英会話学習や資料収集に励んでいます。

最後に、農業クラブ活動に御指導御支援を頂いた諸先生方並びに関係各位に感謝申し上げます。

今年度も昨年同様、会長を初め役員達がよく活動してくれました。しかし、近年どの団体にも言えることだと思いましたが、団体の活動に興味を示し、積極的に参加しようとする生徒が減少し、役員達だけの活動のみに見えたのではないかと感じました。一人でも多くのクラブ員の参加が得られるように役員達が頭を悩ましていたことは一般のクラブ員には理解されていないのではないかと思ふ。世の中にも同様なこととはよく見受けられますが、教育の現場にあることも同様な状況があるというところは寂しいことではないでしょうか。生徒達には、もっといろいろなことに目を向け、参加して、多くの体験を積み、まわりの人と一緒に助け合いながら生活する喜び等を感じて欲しいと思います。

◆一段と厳しくなった進路問題◆

進路指導部長 稲 葉 光 国

今年は金融・不動産関連企業の業績不振をきっかけにバブル経済が破綻し、全業種に不況が波及してきました。

就職戦線でもっと影響を受けたのが大学・短大・専門学校だったようです。高校でも事務職志望者は各企業とも求人数を減らしたうえに、大学・短大からの受験者があつたために大変厳しい環境でした。

中央工学校 日建学園
その他
宇大農学部付属農場
真岡市農協
益子農協
日産自動車
富士重工
神戸製鋼
日立金属
小松メック
大和製作所
土屋製作所
加藤発条
酒井重工
住友ベークライト
栃木住友電工
第一電子
三洋シリコン
ソニー栃木
真岡松下電工
旭光 学
吉野工業所
花 王
P & G
ハインツ日本
関東丸大食品
第一屋製パン
ハウス食品
仙波糖化
大洋漁業
中外製薬
京 樽
寿司田
上野百貨店
福田屋百貨店
マルナカ
ホテル東日本
関東自動車
茨城交通
石橋病院
桜井内科
その他

幸い、本校生徒の場合、昨年並みの五倍前後の求人倍率があり、大多数の生徒が希望する企業に就職できて一安心しているところです。

平成五年度は三月決算の影響が出て、昨年以上回る深刻な雇用問題が出てくると思ひます。どんな仕事も自分の適性に合っているかどうかを十分検討させ、定着率を少しでも高めて、地域産業の信頼を得られるよう努力していきたいと考えています。幸い進路指導相談室の規模が大きくなり多様な生徒の相談に応じる体制が整いましたので、企業研究を充分行つて進路を決定させたいと思います。

【進学】

茨城大学
佐野女子短大
水戸短大
千葉大（別科）
栃木県農業大学校
真岡コンピュータカレッジ
宇都宮ビジネス電子
国際情報ビジネス
宇都宮デザイン電子
専門学校
日産自動車整備
専門学校

進学については約50名の生徒が挑戦しました。まだ最終的な結果は出ておりませんが、短大合格者が二名、四大関係者一名、国立大学別科合格者

